

世界仏教文化研究センター設立記念 Hiroshima Peace Memorial

ヒロシマ被爆 70 年追悼 特別上映『知られざるヒロシマの真実と原爆の実態』

上映後、みなさまから大変多くの感想をいただきました。その一部を匿名で紹介させていただきます。

・実際に戦争を体験した人が少なくなっていく中で、このような悲惨な事を忘れることのないように、若い世代が次の世代に語り継いでいかなければならないと思った。

・原爆投下前の広島の様子も再現されていて、こんな平和な朝に予告なく原爆が落とされて、本当にどのような思いだったのだろうと思いました。絵や被爆者の話から生々しい事実を知り、胸が苦しくなりました。

・今年、人生で初めて広島原爆ドームを見に行く機会がありました。映画を観ながら、原爆ドームで見た時の気持ちを思い出しました。「熱かっただろう。痛かっただろう。つらかっただろう」経験した人の気持ちを言葉で表すことは決してできない、そんな気持ちが私の心の中で何度も何度もぐるぐると渦巻いています。

・私の自坊の本院も広島にありますので、原爆の話を書くたびに一層悲しい気持ちが強くなります。ですが、やはり戦後 70 年経った今だからこそ、しっかりと考えていくべきものであると改めて考えさせられました。

・人々が築いてきた文化、生活、そしてつながり。それらを一瞬にして奪ってしまう核の恐ろしさ、その核を使用するに至ってしまった戦争という行為の愚かしさ。すべてが真に迫るかのような映像で、今まで平和について学んできたことを確かに、再び心に刻むことができました。とても深く考えさせられる時間でした。

・私の祖父はどちらも原爆の時に広島にいたため、被爆者である。そのため私はよく原爆について話を聞くことがあり、小さな頃からとても身近なところで起きた話であると認識してきた。しかし、私と同世代の人々はあまり知識がないということを最近知り、このような場はとても大切だと思った。

・戦争の恐ろしさを知り、後の世代へと受け継いでいく義務が、まさに自分たち自身にあるということを知りました。

・今の生活がすべて消えてしまう、大事な人がみんないなくなってしまう、考えたくもない出来事が、現実起こった悲惨さは、忘れてはいけないと思った。

・戦争によって起こってしまった悲惨な出来事が細かく描写されていてよく伝わってきた。それまでの広島風景やどのように広島という街ができあがったのかがわかりやすかった。実際にその時代に生きていた人々の声も多くあり、現実起こった出来事だと再認識した。

・グローバル化社会においては、自分が世界に対して何をフィードバックできるかを考えていかなければならない。

・非常にインパクトの強い映像が多く、原爆の悲惨さが改めて強く感じられた。CG で被爆前の当時の広島姿を復元していて、視覚を使って原爆のすさまじさが強く訴えられていた。こんなにも多くの被災者の話を聞いたことはなかった。

・私は広島で起こった悲惨な出来事を学校で歴史や平和教育として知っていました。今日、この上映会に出席したことで、その事実や内容を身近に感じることができました。そして私にできることは、この出来事、犠牲になった人々のことを忘れないということだと思いました。貴重な機会・時間となりました。ありがとうございました。

・映画を見て、原爆投下前の街の風景、文化、伝統、子どもたちの遊び……すべてがなくなってしまったということを改めて感じました。

・まだ原爆の実態がわからず、記録に残っていない犠牲者がたくさんいることを知りました。「アメリカ人も同じ人間だ」という言葉がとても印象に残りました。憎しみを越えるために大切なことだと感じました。

・見ているうちに、あまりにもショックで思わず涙が出てきましたが、これが戦争である、これが原爆の恐ろしさであると、ひしひしと痛感しました。

・広島の長い歴史やあたたかい人たちが集まる賑やかな街が、たった一つの爆弾によりすべて破壊され、多くの人々の命が奪われたという事実を絶対に忘れてはならないと改めて感じました。

・何十年も前のことなのに、被爆者の人たちが語る当時の話は、爆弾が落とされた瞬間、人々の状況などが細かく語られていて、それほど人々の傷は大きなものなのだと感じた。

・一番恐いのは、戦争の恐ろしさを知らない人が増えることかもしれません。

・当時の町並みや家の中などを CG で復元したのを見て、より具体的に想像できました。

・原爆に関する番組や本をいくつか読んできたけれど、行方不明者として数えられていないだけで、実はさらに多くの方々が犠牲になっていたということに、大きなショックを受けた。無縁仏として、きちんとしたお墓を作ってもらえていないということ、平和公園の下にはまだ遺骨が眠っているままだということは、覚えておくべきことだと思った。

・人の痛みに共感する心、悲しみを想像する心が戦争をなくすと思う。

・中学のときに修学旅行で原爆ドームを訪れましたが、数年経って改めて広島の被爆の実態をみると、また違った感覚を抱きました。中学のときは、ただただ悲惨な状況で見られないと感じました。しかし今日は、過去の実態をしっかりと見て受けとめて、次につないでいかなければならないと思いました。

・戦後 70 年が経ち、当時のことを知る人がどんどん少なくなり、ゆくゆくはいなくなってしまうので、私たちがしっかりその経験を引き継ぎ、必ず次の世代へと伝えなければならぬと思った。さらに世界へ発信しなければと思った。

ここでは一部しか紹介できませんでしたが、ご参加いただいたみなさまからは本当に多くの感想をいただきました。ありがとうございました。

最後に、田邊雅章監督、本日は誠にありがとうございました。

2015/11/30